

平成 2 5 年 3 月 6 日

平成 2 4 年度練馬区立貫井中学校 学校評価報告書

練馬区立貫井中学校
校長 石原 正義

1 自己評価結果

(1) 概要

学校生活の楽しさ

生徒、保護者とも楽しい学校生活を送っていることについては極めて肯定的に感じている。特に生徒は 6 割がとても楽しいと感じている。教員の評価がやや低いのは設問にある生徒一人一人を考えるととても楽しいと言い切れないという控えめな評価が中心となったためであろう。

各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間

生徒はおおむね良好な評価を与えている。保護者の評価も比較的高いが、教員の評価はやや低くなっている。特に各教科や道徳についての評価が低い。さらに学習指導の改善や活動内容の充実を図っていく必要がある。特に新教育課程に基づいた指導の研究が必要である。電子黒板を使った I C T 教育や学校図書館の活用も考えていく。

生活指導・進路指導

生活指導で生徒はほぼ満足な結果が得られたが、保護者評価はやや低い。進路指導はさらに保護者との連携を密にした寄り添った指導、ていねいで分かりやすい説明を求められており、自己実現が出来る能力や態度の育成も課題である。

特色ある教育活動

本校で行われている生徒の主体的な取り組みを促す学校行事や生徒会活動が、定着し、評価されている。さらに生徒の活躍の場を増やし、生徒の自律的な取り組みに結びつくよう指導していきたい。朝読書や図書館利用の実態を保護者に知ってもらう必要がある。

家庭との連携

多くの保護者の理解と協力は得られているが、地域との連携、協力の面でやや課題もある。生徒や教職員の地域行事への参加を進め、情報発信面で改善を図る。

施設・設備

給食調理室新設、トイレ改修の後、大きな問題点はないが、老朽化対策や環境整備、校庭の改修、特別教室の空調機設置などを目指して充実を図っていきたい。

(2) 根拠となる資料

A : 十分 (4 点) , B : おおむね十分 (3 点) C : やや不十分 (2 点)
D : 不十分 (1 点) として点数化

学校生活の楽しさ

	A	B	C	D	平均点
教員	6%	78%	11%	6%	2, 8
生徒	61%	31%	6%	1%	3, 5
保護者	41%	52%	5%	1%	3, 4

多くの生徒、保護者とも貫井中での学校生活を楽しく送っていると感じている。特に生徒の三分の二近くがとても思うと答えている。それ自体は喜ばしいことだが、楽しくないと答えている生徒もいるので、教員はその全体を見てAの回答が少なくなったものと思われる。

各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間

ア 各教科

	A	B	C	D	平均点
教員	6%	69%	26%	0%	2, 8
生徒	33%	48%	17%	3%	3, 1
保護者	15%	59%	18%	3%	2, 9

生徒自身は比較的高い評価をしているが、学習意欲の向上や学習内容の定着に課題がある。少人数指導やチームティーチングなどの指導形態の工夫や授業研究によって指導法の改善や教材・教具の開発、電子黒板や学校図書館の活用を進める必要がある。

イ 道徳

	A	B	C	D	平均点
教員	0%	56%	39%	6%	2, 5
生徒	30%	55%	10%	4%	3, 1
保護者	12%	67%	14%	1%	3, 0

生徒は道徳の授業などで生命の大切さや思いやりの心が育っていると感じているが、教員は日頃の生徒の様子を見てとてもそこまで行ってないと感じているようだ。自分の行動を省みて、よりよい自分を作る意識を持たせるよう道徳の時間を充実させ、改善を図る。

ウ 特別活動

	A	B	C	D	平均点
教員	22%	70%	8%	0%	3, 15
生徒	53%	30%	9%	4%	3, 4
保護者	34%	43%	13%	3%	3, 2

生徒主体の学校行事や生徒会活動に対しては、生徒、保護者、教員ともかなりの評価が見られ成果も上げていると思われる。部活動も肯定的に受け取られているが、外部指導員の活用、活動内容の充実への努力を行う。

エ 総合的な学習の時間

	A	B	C	D	平均点
教員	15%	54%	26%	5%	2,80
生徒	26%	45%	24%	5%	2,95
保護者	8%	44%	42%	6%	2,55

活動内容は定着してきており、成果は上がっている。各学年の取り組みを共有し、三年間を見通した指導をする必要がある。保護者への周知、各学年の実践記録や資料の引継を確実に行うことが肝要である。第二土曜の授業でも2時間行う。

生活指導・進路指導

ア 生活指導

	A	B	C	D	平均点
教員	24%	60%	14%	3%	3,03
生徒	32%	40%	16%	9%	3,0
保護者	15%	54%	22%	3%	2,85

基本的な生活習慣、礼儀、言葉遣い、挨拶や規範意識は次第に定着が見られる。不登校やいじめについて教員は、指導や対応をやっているつもりだが、生徒や保護者はやや厳しい評価をしている。指導の継続と内容の充実を進めていく。同様に悩み事や心配事が相談しやすいかも、教員が思っているほど生徒や保護者は良く思っていない。より相談しやすい環境、雰囲気構築と特別な配慮を必要とする生徒への理解や対応は、教員の研修とスクールカウンセラー、心の相談員、学校生活支援員の活用を考えていく。

イ 進路指導

	A	B	C	D	平均点
教員	14%	78%	8%	0%	3,05
生徒	39%	43%	11%	4%	3,2
保護者	12%	46%	31%	5%	2,7

生徒の自己実現が図れる指導をめざしているが、保護者との連携を密にした適切な進路指導や、自己実現が出来る能力や態度の育成にはまだ課題が残る。より丁寧で親切的な進路指導の充実や、保護者や生徒とのさらなる連携を図らなければならない。

特色ある教育活動

	A	B	C	D	平均点
教員	20%	67%	11%	3%	3,05
生徒	47%	34%	12%	4%	3,25
保護者	26%	40%	22%	6%	2,90

学校行事への取り組みや生徒会活動は積極的に行われているし自主的な態度が育ってきている。朝の読書や学校図書館の利用は生徒は肯定的にとらえているが、保護者評価は低い。読書習慣が家では見られないということだろうか。学校での朝読書や図書館利用の実態を知ってもらう必要がある。また、保護者や地域との連携を図り、地域の人材活用を推し進め、生徒が地域の一員としての自覚を深めるような活動を取り入れていきたいし、生徒にそのことを促していきたい。

家庭との連携

	A	B	C	D	平均点
教員	14%	78%	6%	3%	3,0
生徒	33%	40%	17%	7%	3,05
保護者	16%	57%	18%	2%	2,9

学校の教育活動に関する理解と協力が得られつつある。学校公開、道徳授業地区公開講座、保護者会等で地域や保護者により理解していただくような工夫も必要である。また生徒の地域行事への参加を進め、一層の連携を深めるため、学校だよりや学年だより、学級だより、ホームページの活用、教員の地域行事への参加などを図る。

施設・設備

	A	B	C	D	平均点
教員	28%	67%	6%	0%	3,2
生徒	39%	42%	12%	3%	3,2
保護者	17%	69%	6%	0%	3,1

給食調理室が新設された後、生徒側トイレの改修も終わり清潔で使いやすくなった。校庭の改修や特別教室の空調機設置などが今後の課題である。

2 学校関係者評価

(1) 自己評価に対する学校関係者の意見

- ・保護者は、先生方との接点を求めている。

- ・進路に関しては、丁寧な指導をして欲しい保護者が多い。
- ・学力が二極分化する中で大変ですが、学力を向上させるよう努力して下さい。
- ・学校公開に来る保護者が少ない。
- ・貫井中は生徒が良く挨拶をしてくれる。これこそ道徳の実践ではないか。
- ・道徳の授業に工夫を加え、地域の人材を活用したらどうか。道徳の授業に自信のない先生もいるのではないか。
- ・合唱コンクールは素晴らしい。上級生が手本になっている。
- ・不登校対策の実態は個人情報も絡むのでわかりにくい。

(2)次年度の学校経営への要望

- ・挨拶の伝統を守って欲しい。
- ・進路に関してはより丁寧に親切に説明し、保護者や生徒の相談に乗って欲しい。
- ・生徒・教職員の地域行事への参加をお願いしたい。
- ・教科指導、道徳など、学校がやっていることをさらに広報していけば評価は上がると思う。

3 評価結果の公表

3月5日の保護者会や学校だより3月号を通して公表した。

4 次年度の学校改善に向けた校長の見解

本校の生徒の特徴として、礼儀正しく行儀の良い生徒が挙げられるが、今後もこの状態を維持・発展させたい。生徒の多くは学校生活における基本的な生活習慣や学習態度が身に付いてきているが、家庭の協力を求めながらも、時には学校側主導で是正しなければならないこともある。生徒指導だけでなく保護者指導が必要な時代になってきた。また生徒一人一人の心を育てながら、学校生活を充実させるために、学校行事や生徒会活動、部活動など生徒が主体となって活躍できる機会を、今以上に作っていききたい。生徒と教師の信頼関係はかなり良くなってきたが、非常に相談しやすいとまでいっていない。日常的な生徒とのふれあい、教育相談的指導を徹底していきたい。

学習指導においては、生徒の評価はまずまずであるが、保護者の評価は満足できるほどではないし、教員の評価も十分ではない。やはり新学習指導要領に向けての指導法の改善や工夫、教師の自覚や研修が求められる。基礎基本の定着を図りながら、学習意欲の向上や自主的な学習態度の育成に結びつく授業の構築をしていく。特に電子黒板を利用したICT教育や図書館を利用した教育はまだ一部の教員しか活用しておらず、全教員が取り組むようにしたい。教員の授業内容はかなり良くなってきているが、旧態依然の授業内容の教員もいるので改善させたい。夏休み中の補充学習や、放課後や定期考査前の質問教室などの充実も求められる。

また、進路指導ではさらに保護者との連携を密にした寄り添った指導、ていねいで分かりやすい説明を求められており、生徒第一の観点から真摯な取り組みが必要となる。

もちろん、公立中学校として保護者や地域社会との協力関係は学校の教育活動の基

盤となる。さらに開かれた学校づくりを推し進め、地域の外部人材の活用、教職員や生徒を地域の行事に参加させるなどより地域に密着した活動を工夫していく。学校が地域に貢献していき、場所や施設の開放、人材派遣、地域行事への参加で地域社会の信頼に応えていきたい。例えば地域を巻き込んだ防災訓練の実施やそれに中学生を参加させたり、地域の敬老会や町会の運動会に、昨年から参加した吹奏楽部の生徒が演奏や歌のプレゼントをするなど工夫はいくらでも出来る。また近隣の小学校との小中一貫教育にも取り組みたい。今年から本校生徒が練馬第二小学校と練馬第三小学校で行った生徒海外派遣報告会や、生徒会と児童会との交流共同作業、教職員同士の交流、授業参観や出前授業、数学や英語を始め教科のカリキュラムや指導法の共通理解など現状から少しでも踏み出していきたい。

いずれにしても生徒や保護者、地域あつての学校であることを、教職員が自覚し、意欲的な取り組みをしていくようにしたい。また教職員自身がこれだけ頑張っているということを自信を持って訴えられる雰囲気を作っていきたいし、そのことを広報していく。